

1 単元名 「水よう液」 (第6学年)

2 本時で働かせる理科の見方・考え方

理科の見方	理科の考え方
質的・実体的な視点	比較する 多面的に考える

3 実践の内容

(1) 本時の目標

【思考力・判断力・表現力等】 水溶液について、溶けている物に着目して、それらによる水溶液の性質や働きの違いを多面的に調べる活動を通して、溶けているものによる性質や働きの違いについて、より妥当な考えをつくりだし、表現することができる。

(2) 本時の学習の流れ

- ① 既習事項の確認と本時の課題をつかむ
- ② グループで課題を解決するための実験方法、手順を話し合う。
- ③ 実験をする
- ④ 結果の共有、ふり返り

(3) 授業の実際

★ 問題

 これまで学習してきたことを生かして、「水よう液 X」の正体を探り当てよう。

リトマス紙の反応 (アルカリ性) 蒸発させたときの 反応 (固体)	比較する (考え方)	リトマス紙の反応 (酸性) 蒸発させたときの 反応 (固体)
--	------------	---

これらの実験結果をまとめると、この水溶液は「石灰水」だと考えられる 

なぞの「水よう液 X」の正体を探るにはどのような実験を行えばよいだろうか。

予想

 3つの実験手順を踏めば、正体を探り当てることができるだろう。

最初に、リトマス紙で性質を調べるとよさそうだ。 

指導のポイント

- ① グループで話し合いながら、ワークシートにまとめさせる。
- ② 必要ないと判断した実験は、やらくてよいことを伝える。
- ③ 実験する際は立って行うなど、安全指導を徹底する。

